

みなさん、こんにちは。本校は2学期制を採っているため、今日は終業式ではなく、「夏休み前の全校集会」という位置づけになります。

本日は、皆さんに2つの話をしたいと思います。ひとつは少し重たいテーマである「依存症」について。そしてもうひとつは、最近観た映画『国宝』の話です。

「依存症」と聞くと、アルコールやタバコ、薬物を思い浮かべる人が多いかもしれません。最近では、大谷翔平選手の通訳だった水原一平氏が「ギャンブル依存症」により、大谷選手の口座から約18億円を不正に使い込んだという事件がありました。水原氏はその件で実刑判決を受け、現在服役中です。

でも、依存症は決して特別な人だけの問題ではありません。私たちのすぐ身近にもあるものです。たとえば、スマホ、SNS、ゲーム、動画、お菓子、買い物など。誰でも一度はハマったことがあるのではないのでしょうか。依存症とは、「悪いとわかっていても、やめたくてもやめられない状態」のことをいいます。自分でコントロールできているうちは依存症ではありませんが、徐々に自分では止められなくなるのが怖いところですよ。

ある高校生の実話を紹介します。その生徒は、成績も良く部活にも一生懸命取り組んでいましたが、ある時期からチャットアプリに夢中になり、深夜まで友達とのやり取りを続けるようになりました。「友達とつながっていたい」という気持ちから始まったことでしたが、次第に寝不足になり、朝起きられず、遅刻や欠席が増えていきました。やがて、学校にも来られなくなってしまいました。

また、別のケースでは、オンラインゲームにのめり込みすぎて親に嘘をつき、課金を繰り返した結果、数十万円の請求が届いて発覚したという例もあります。

依存症が本当に怖いのは、「自分でやめられる」「大丈夫」と思っていたのに、実際には脳の働きが変化して、自分の意志だけでは止められなくなるところです。だから、依存症は意志が弱い人になるわけではありません。正確に言えば、「脳の病気」なのです。

私たちの脳には、「報酬系」という仕組みがあります。快楽や安心を感じたとき、ドーパミンという物質が分泌され、それをもう一度味わいたくなります。スマホやゲーム、お菓子などはこの報酬系を強く刺激するため、ついつい繰り返してしまうのです。特に10代の脳は、まだ発達途中にあり、感情や衝動を抑える力が未熟です。そのため、依存の影響を受けやすいとも言われています。

依存症から回復するには、「気づくこと」「認めること」が最初の一步です。「もしかして、これって依存かも」と自分で気づくこと。そして、「ちょっと苦しいな」「自分ひとりでは無理かも」と感じたら、誰かに相談してみる事です。学校には、保健室の先生やスクールカウンセラーなど、専門家がいます。勇気を出して、まず相談してみる事。その一歩が、とても大切になります。

2つ目の話題に移ります。2週間ほど前、私は『国宝』という映画を観ました。

この映画は、作家・吉田修一さんによる小説『国宝』（上下巻）が原作です。少し前に図書館で借りて読んでいたのですが、SNSでも評判がよかったので、映画館で観てみました。

物語の主人公・喜久雄は、九州のやくざの家に生まれます。抗争で父を目の前で亡くし、その後、歌舞伎の名家に引き取られます。そこには、将来を期待される跡取り・俊介がおり、二人は兄弟のように絆を深めながら芸を磨いていきます。しかし、師匠が事故で倒れたとき、その代役に息子である俊介ではなく喜久雄を選んだことが、二人の運命を大きく分けることになります。喜久雄を演じたのは吉沢亮さん。俊介を演じたのは横浜流星さんです。3時間の映画があっという間に感じられるほど、迫力と美しさに満ちていました。

特に、女形として舞台に立つ吉沢亮さんは、本当に美しく、気品ある所作のひとつひとつに心を奪われました。みなさんは吉沢亮さんを知っていますか。彼は『仮面ライダーフォーゼ』でメテオ役を演じて注目され、NHK大河ドラマ『青天を衝け』では渋沢栄一を熱演しました。実は、昨年には酒に酔って隣の部屋に誤って入ってしまうという事件がありましたが、示談が成立したようです。

そしてもう一つ。中学生のときには、学校の半数以上の女子生徒から告白されたというエピソードもあるそうです。ただ、吉沢さん自身が好意を持っていた相手はすでに他の人と交際していて、思いは叶わなかったとか。青春時代の恋って、そういうものかもしれませんね。

さて、なぜこんなに映画『国宝』の話をしているのかというと、2年前に本校を卒業した小鹿利一郎君のことを紹介したかったからです。彼は、国立劇場の歌舞伎俳優研修所で2年間学び、今年4月に二代目中村獅童さんに入門しました。そして5月には、大阪・関西万博の舞台で「中村獅三郎」として初舞台を踏みました。小鹿君がなぜ歌舞伎の道を志すようになったのかは分かりません。けれど、映画『国宝』の喜久雄の姿と重ねながら、彼の歩みをとても感慨深く思いました。今後、芸の道を極めていくことを応援していきたいと考えています。

先日、2年生を対象に校内企業説明会が行われました。生徒の皆さんが、興味のある企業のブースを回り、直接話を聞くという貴重な機会でした。それを見て感じたのは、「興味のあること」に加えて、「まったく知らない世界の話」を聞くことも大事だということです。毎日同じ道を登下校していると、新しい景色は見えません。でも、いつもと違う道を通ってみると、そこには新しい出会いや発見があるものです。それと同じように、「知らなかった世界」に出会うことは、進路や人生の選択肢を広げる大きなヒントになります。アイドルを目指す人はいても、歌舞伎役者を目指す人が少ないのは、それに出会っていないからかもしれません。出会いのアンテナを広げて、新しい世界に目を向けてほしいと思います。

明日から始まる夏休みは、さまざまな依存の誘惑を断ち切り、自分の知らない世界を試みるチャンスです。そして、夏休み明けには、楽しみにしている城北祭も待っています。ゲスト公演も出演者が決まりました。また、PTA 研修会には、本校卒業生でジャズシンガーとして活躍されている萱原恵衣（かやはらけい）さんをお迎えする予定です。どうか1か月間の夏休みを、事故やけがのないよう、元気に楽しく過ごしてください。8月20日、またみなさんと元気に会えるのを楽しみにしています。

・・・その前に、全校応援で野球部の背中を押して、みんなで甲子園へ行きましょう。